



私の
業務
komachi's
point

工務担当として、施工が仕様どおり行われているかどうかのチェックは日常業務。その上で、施主や設計事務所とのやりとりの窓口として調整役も務める。

仕様変更を機に、設計部から現場へ
池田は、二〇一四（平成二十六）年の春までは、前田建設工業（株）本店の設計部に所属して意匠設計を担当していた。それが、今は総合病院の新築（移築）工事現場で工務を担当している。

「就職は、設計事務所かゼネコンの設計部かという選択肢なんですけど、実際、設計事務所はあまり現実的じゃないかな、と。その分、ゼネコンは大規模な建物も手がけることができると、福岡ドームとかリバーウォーク北九州とかをつくらせていて福岡でもなじみがある前田建設工業（株）を選びました」

「就職は、設計事務所かゼネコンの設計部か

現場監督・池田沙瑛子は、一九八四（昭和五十九）年、福岡県生まれ。小学生のころから早くも、建築の道を意識していたという。「地元は久留米なんですけど、小学校の同級生にお父さんが建築家っていう子がいて、そのお父さんはけっこう独創的な建物を建ててたんですよ。レストランとか、その子の自宅兼事務所とか。家に遊びに行ったら、壁にゴツゴツした岩が埋まって、その岩でロッククライミンググをしようと思った人で（笑）。それで建築家っていう職業に興味を持ったんですね」
高校卒業後、福岡大学の建築学科に進み、大学院修士課程を修了した。

友人の父に影響を受けて

現場監督・池田沙瑛子は、一九八四（昭和五十九）年、福岡県生まれ。小学生のころから早くも、建築の道を意識していたという。「地元は久留米なんですけど、小学校の同級生にお父さんが建築家っていう子がいて、そのお父さんはけっこう独創的な建物を建ててたんですよ。レストランとか、その子の自宅兼事務所とか。家に遊びに行ったら、壁にゴツゴツした岩が埋まって、その岩でロッククライミンググをしようと思った人で（笑）。それで建築家っていう職業に興味を持ったんですね」
高校卒業後、福岡大学の建築学科に進み、大学院修士課程を修了した。

「もともとこの建物は鉄筋コンクリート（RC）造だったんですが、コストダウンを図ってRC造に、柱はRCで梁を鉄骨（S）造にする『RC造にS造』に変更することが決まったんです。それで図面や細かい仕様なんかも全部それに合わせて変更になりました。私は過去に病院の設計に携わり、医業経営コンサルタンの資格を取ったということもあってこの現場に配属されて、着工後も私が現場で図面を見ていくことになったんですね。若手の設計者が勉強のためにローテーションで現場に出ることはありますけど、今回のような形で設計から現場に、っていうパターンはなかなかないと思います」

設計部ではわからなかったこと

前田建設工業（株）の設計施工ではないにもかかわらず設計部から現場に出ることになったが、あらためて図面上のことと現場で起こることの違いを痛感することになった。

「ゼロを一にするのが設計だと思ったら、一を〇にするのが現場だと思っんです。どちらが大変とかいう話ではなく、とにかく全然違う仕事だな、と。例えば設計図上では何となくでも成り立つものってあるんですけど、現場ではイエスカノー、形になるかならないか。何事もはつきりさせないと建物が建たないっていうことですね」

設計部では現場で発生した設計変更に対応し

輝け！

けんせつ小町

現場監督

池田沙瑛子

前田建設工業（株）
東葛病院作業所



「けんせつ小町」は、日建連が定めた建設業で活躍する女性の愛称です。

建設会社に属する設計者は、多くの場合、建物をデザインし設計図をまとめる意匠設計や建物が壊れないように材料や部材を算定する構造設計などに従事することになる。今回紹介するけんせつ小町は、ゼネコンの設計部から工事を取り仕切る工務担当として現場に赴任した、異例の経歴の持ち主。そのいきさつや仕事を聞いた。





これまでも病院関係者を対象に月1回現場見学会を行っていた。引き渡しが近づき、多い日は1日に5回病院関係者の案内をする。

「ゼロを1にするのが設計なら、 1を10にするのが現場。 その違いをしっかりと学ぶ」

たこともあるが、
「設計段階で詰め切れてなかった部分を、現場でうまく工夫して納めてくれている。もちろん変更はその都度設計にも上がっている。もちろん、現場でどんな問題が起きたか、すべては伝わってこなくて、実際はこうやって処理されているんだ、だから『設計は本当はこういうところに気をつけなきゃいけないんだ』っていう

部分を知ったので、これから設計に戻ったらプレッシャーはあります（笑）」
とはいえ、設計者としての矜持も忘れてはいない。

「当事者意識と責任感。これは以前と変わらず持ち続けています。施工とのやりとりの中でも、自分が前面に出るんだという部分は設計にいた時から心がけています」

「現場がやりやすくなるように自分のデザインを変えるとか、そういうのは違うと思うんですよ。現場の人がどれくらい苦労するかわかった上で、押し通すべきところは押し通す、でも不必要なことはしないというか…そのメリハリです」

「現場監督」といっても、現在の池田は、いわゆる施工管理として職人を相手にしているわけではない。
「私の役目は、図面と施工対応ですね。施工からの要望を聞いて、設計の山下設計と調整して、それではっきりした変更点を現場に伝えます。その時の伝える相手は所長とか工事課長なので、職人さんに直接指示を出す、ということはありません」

施主・設計事務所との対応に奔走

「一口に「施主対応」といっても、今回のような病院のケースでは、生命を預かる現場ということもあり、各部門の医師・看護師から微に入り細にわたって使い勝手に関する要望を受ける。」「総合病院なので、内科、外科、精神科、産婦人科など各部門の先生方が現場を見に来て、コンセントの位置とかドアの開き勝手なんかを細かくチェックする。今はもう竣工前なので、対応できることとできないことがあるんですけど、一日に五部門くらい来られることもあります」

池田が赴任したころはまだ躯体工事中だったのが、月に一回のペースで見学会が行われ、病院

私の
仲間
komachi's
point



上／作業所職員のみなさんと。「現場が設計図から知りたいのはこういうことなんだよ、ということ先輩から教わっています」（池田）。

下／東葛病院の建設現場。工事は大詰めだが、病院側からのリクエストは竣工ぎりぎりまで続くため気が抜けない。

komachi MEMO

「ホテルが大好きで、息抜きで1泊10万くらいの高級ホテルに泊まるのが趣味というか（笑）。これだけ投資してるんで、いつかは前田建設工業（株）でホテルの設計をしたいです」



profile

いけだ・さえこ◎1984(昭和59)年、福岡県久留米市生まれ。同級生の父親の影響で建築家をめざす。高校卒業後、福岡大学の建築学科、さらに同大学院でも建築を学び、前田建設工業㈱の設計部に入社。同社本店で意匠設計を担当していたが、2014年より現在の東葛病院作業所に配属され、主任を務める。

後輩のけんせつ小町と。「私は工務担当ですが、彼女は施工担当です。普段こんな風に話す機会はあまりないですが、頑張ってもらいたいですね」

の建設委員会からの要求に設計変更などで対応してきた。

「病院の方々も要求一辺倒じゃなくて、面積が限られた中だからしょうがない、(引渡し後の)運用でカバーしようみたいに言っていたので、一緒につくり上げていくっていう感じはありますね」

女性としての「先駆者」になる

結婚・出産という局面を考えると、女性が現場の仕事と両立することの困難さも見えてくる。ただ、それを踏まえた上での決意も語ってくれた。

「会社で建築系の女性職員の集まりがあったんですけど、私より少し先に入った方のほとんどが現場の一線から退いて、施工支援とか支店の内勤になっていったんです。それで、やっぱり女性が現場で上に行くのは難しいのかな、と思う反面、誰かが登りつめていければ、それを目標にして若い人が入ってくれるかもしれない。だから私たちが若手や中堅がこれから道を作って先駆者になりたいねっていう話をしていたんです」

「こう言っただけですけど、このように誌面に取り上げてもらえるのって、私が女性だからですよ。だから私たちがもう女性という立場を利用して、うまく情報を発信していければと思っています」